

特集 ゆるぎない英語力を育成するために

USE Readを活用した「英語で読む力」の育て方

池野 修 (愛媛大学)



新しい USE Read を作るにあたって

28NCでは、現行版を発展させる形で、リーディングに特化したページ USE Read を作っている。このページのねらいは、GETのセクションで習得した基礎・基本の力を活用し、まとまった分量の文章の読解に取り組み、英語で読む力を育てることである。

以下、USE Read 指導にあたってのポイントのいくつかを整理しておこう。

1. 予習よりも授業中の活動と復習を重視する

基本的に、USE Read は予習を前提とした授業を想定していない。GET で学んだ内容をしっかりおさえた上で、授業の中で英語での読みのトレーニングをしっかり行う。予習に使える時間やエネルギーがあるのであれば、それは、むしろ復習 (e.g. 授業中に意味を確認した英文を何度も読む) の方に回す方が適切と考えている。

予習を前提としない、読みに特化した授業を行うために、28NCでは、新出単語にはあらかじめ日本語訳をつけて教科書中に提示している。このことにより、生徒が単語の意味を調べる作業は必要なくなり、英文を読んでいる時にも単語の意味を参照することが容易となる。辞書指導などはもちろん必要ではあるが、別の機会を設けて行い、USE Read では読むことに集中するというのが方針である。

2. 多様な形で読みのトレーニングを行う

教科書中に含まれている活動の特徴をよく理解した上で、効果的な指導を行うようにしたい。英文の内容理解のためのメイン活動は In-Reading の部

分であり、3つのステップから成っている。それは、1st Reading = 内容のおおすじをつかむ (キーワード、概要、大まかな文章構成の把握)、2nd Reading = 細かい内容をおさえる (詳細の理解)、3rd Reading = 内容をふり返る (要約、表による整理 etc.) というステップである。なお、3rd Reading にそれぞれの英文の読みのゴールになる課題が配置されている。

Book 1 の Lesson 9 (1年間の日本での思い出についてのエマによるブログ) を例にとってみると、1st は4つのブログ記事とそのキーワードをマッチさせる課題、2nd は記事の中心的な内容を確認する問題、3rd は読み取った内容について自分なりに英語でまとめる (本文の表現を使いながら retell/rewrite する) 活動となっている。これらの活動をこなしながら、ターゲットとなる英文を何度も読み返し、徐々に理解を深め、読みのスキルを向上させる。

内容理解のための In-Reading の活動の他に、英文の横の部分には Check という活動がある。Check には3つのタイプがあり、A = 代名詞や言い換え語句の照応のチェック、B = GET で導入・練習した文法の振り返り (Grammar Hunt)、C = 文章構成への気づきの促進という内容になっている。特に C は 28NC で新たに加えたものであり、例えば、「文の最初にある『時を表す表現』に下線を引こう」(Book 2 L2: Peter Rabbit)、「この英文を『調査の概要』『調査結果』『結論』の3つの部分に分けよう」(L7: Presentation) などである。

USE Read は様々なパーツから構成されているが、それぞれの部分の役割を理解した上で、効果的な活用を工夫してみたい。

3. テキストタイプに応じた読みの指導を行う

どのような発問を提示するか、どのような活動を行うかは、読みの目的やテキストタイプを考え合わせて決める必要がある。28NCでは、英文を「説明文」「意見文」「物語文」の3つに分類し、それぞれのタイプに応じた読みの力を鍛える。具体的には、説明文では「述べられている主要な事実をおさえること」、意見文では「筆者の言いたいポイント (主張) とその根拠をきちんと理解すること」、物語文では「話の流れや登場人物の気持ちを理解すること」が重要であるため、それに対応した活動を準備している。紙面構成や活動の配置などについては「指導の標準化」を図り、授業に安定感を持たせているが、同時に、テキストタイプに応じて読みを調整することも重要であるため、発問内容や読みの最終タスクの3rd Reading の課題にはバリエーションを加えている。

3rd Reading 内容を整理する
表の空欄に数字や英語を記入し、3つの方法の特徴を整理しよう。

	e-mail	letter	phone
人数	()	()	()
特徴	<ul style="list-style-type: none"> easy convenient 		

Book 2 Lesson 7 説明文の3rd Reading

4. 3年間を見通した段階的な指導を目指す

USE Read の活用にあたっては、それが含まれるレッスンの他ページとの関係を確認するのはもちろんだが、3年間を見通した他のレッスンの USE Read との関係を考えることも重要である。例えば以下のような点を踏まえて段階的な指導を心がけたい。

(A) 「英文の長さ」: 1年の最後では135語、2年生で188語、3年生で329語となっている。最終ゴール (例えば、高校入試に対応できるリーディング能力) から逆算して、それぞれの段階でどの程度の長さの英文を生徒に読ませるのかを意識しながら指導を行うことが必要である。

(B) 「活動のレベル」: 英文のレベルだけでなく、活動のレベルも、徐々に難易度の高い、生徒が自分で考えて行うものへステップアップしていくように

USE Read は作成されている。例えば、2nd Reading の部分を見てみると、1年生の Lesson 7 では、答えに該当する本文部分に下線を引いたり、それを□で囲んだりする活動、Lesson 9 では空欄を埋めて解答文を完成させる活動となっている。自由度を低くした、比較的容易な活動である。2年生の前半になると、日本語による質問に自由解答形式で答える活動、2年生の Lesson 5 以降は英問に答える活動という具合に、徐々に解答形式が変化していく。教科書の進行とともにリーディング活動がレベルアップしていくイメージを持って指導にあたるのが重要であろう。

(C) 「読みのスキル」: 授業の中で鍛える読みのスキルについて、「予測」「キーワード・チェック」「行間を読む」「5W1H」「パラグラフ・リーディング」「情報検索読み」「要約」などの方略を3年間にわたって配している。それぞれの英文に適したスキルを特定し、In-Reading の3rd Reading においてそれに関する課題を提示している。また、スキルの内容を Tips for Reading という形で解説し、生徒もそれを確認できるようになっている。例えば Book 1 Lesson 9 (Four Seasons) 「読む前に、タイトルや写真などから内容を予測してみよう」、Book 2 Lesson 5 (Uluru) 「各段落で一番重要な文な何かを考えながら読んでみよう」などが例にあたる。3rd Reading にある関連活動を行った後に、Tips for Reading の内容を確認するという流れにすると効果的である。

Tips for Reading

時を表す語句は、物語のあらすじを追うのに重要です。それらに注意して、いつ、何が起こったかをおさえながら読んでみよう。

Book 3 Lesson 4 Tips for Reading

28NC は 24NC をベースに、活動の目的や意図をより明確にし、構成や展開をより使いやすしい形に作り直したものである。基本方針は理解していただいた上で、創造的に活用し、「英語で読む力」の育成に役立てていただければ幸いです。

NEGISHI MASASHI
 TAJIMA OSAMU
 TAJIMA SHINGI
 HIGASHI SHIGEKI
 MATSUZAWA SHINJI
 SUZUKI SATORU
 IKENO OSAMU
 KUDO YOJI
 HIROUKI
 SAKAI HIDEKI
 TANABE YUJI
 TAJIMA MISAKO